

～みんなにやさしいまちに～  
さいたま市福祉のまちづくり  
モデル地区推進事業 活動報告書  
〈平成30年度〉



平成31年3月  
さいたま市福祉のまちづくり  
モデル地区推進部会

<目 次>

I. モデル地区推進事業	1
II. 北浦和小学校での具体的活動内容	3
III. 参加者の声から	12

---

# I. モデル地区推進事業

---

## 1. 目的

- この事業は、平成16年3月に制定した「だれもが住みよい福祉のまちづくり条例」に掲げる目的である「だれもが心豊かに暮らすことのできるユニバーサルデザインの都市の実現」のため、総合的かつ計画的に推進するための基本となる「福祉のまちづくり推進指針」を策定し、目的を達成するための一つの方策として、モデル地区を設定し、ハードとソフトが一体となった総合的な福祉のまちづくり活動を行うものです。

## 2. これまでのモデル地区推進事業

- 平成18年度から平成21年度までについては、本市の交通バリアフリー基本構想の重点整備地区に指定されている浦和駅周辺地区・北浦和駅周辺地区・大宮駅周辺地区での活動を優先的に取り組んできました。
  - 浦和駅西口地区 : 高砂小（平成18年度）
  - 浦和駅東口地区 : 仲本小（平成19年度）
  - 大宮駅東口地区 : 大宮小（平成20年度）
  - 大宮駅西口地区 : 桜木小（平成21年度）
- 平成22年度に福祉のまちづくり推進指針を改訂し、平成22年度から平成26年度（第2期）の期間については、モデル地区推進事業の対象を、交通バリアフリー基本構想にとらわれることなく柔軟に対応しました。
  - 下落合小（平成23年度）
  - 大谷場中（平成24年度）
  - 岩槻中（平成25年度）
  - 大宮北小（平成26年度）
- 様々な地域における小中学校の協力のもと、年1回モデル地区推進事業を実施してまいりましたが、安定した参加者数を確保できない点が課題でした。そこで、第3期（平成27年度から平成32年度）については、地域の自治会、民生委員・児童委員、PTA、保護者、地区社会福祉協議会、NPO等に対して働きかけを強化し、よりモデル地区推進事業を拡大することで、地域ぐるみで福祉のまちづくりについて学び合う場を作ることを目指します。
  - 神田小（平成27年度）
  - 植水小（平成28年度）
  - 海老沼小（平成29年度）

### 3. 活動イメージ

- 児童や保護者、地域の方々とともに、当事者との交流、障害等の体験学習、まち歩きによる点検、学び合いなどを行います。  
なお、小・中学校での学習は、各学校のスケジュールやカリキュラム等と連携して行っています。

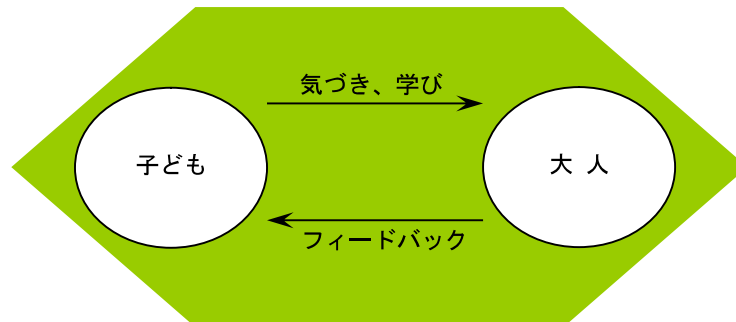
### 4. 組織

- 「さいたま市福祉のまちづくりモデル地区推進部会」は、「さいたま市福祉のまちづくり推進協議会」の中に設置された部会で、NPO、福祉関係団体、交通事業者、市民代表によって組織され、モデル地区推進事業を展開しています。

### 5 学び合いのイメージ

- 子どもたちに福祉のまちづくりを伝えて気づきを促し、その豊かな感性から生まれるアイデアを大人たちに伝え、再び大人たちからのフィードバックを受け取るという学び合いのプロセスを実現し、一定期間継続することで、地域に広がっていく活動を想定しています。

#### 学び合いのプロセスを地域に広げていく



## Ⅱ. 具体的活動内容

モデル地区推進事業は、学校の総合的な学習の時間を利用して、さいたま市福祉のまちづくりモデル地区推進部会委員をはじめ、障害のある方や市福祉関係団体等の協力を得て、福祉のまちづくりをともに学びあえる機会をつくり、地域に暮らす保護者や住民等に参加を呼びかけ、実施しています。

学校では、障害のある方や関係者等の方々からの聞き取り学習や、アイマスクや車いすを使用しての各種体験学習、まち歩き学習、学習発表会など多様で総合的な学び合いのなかで、「心のバリアフリー」に取り組んでいます。

平成30年度は、浦和区にある北浦和小学校に協力をいただいて実施しました。

### 北浦和小学校での取組について

北浦和小学校では、4年生（124名）を対象に実施しました。

#### (1) 取組の概要

##### 【参加者】

さいたま市福祉まちづくり推進協議会委員の他、視覚・聴覚・知的の各障害者団体、NPO団体、地区社会福祉協議会、市社会福祉協議会、市社会福祉事業団などが参加しました。

##### 【テーマ ～みんなで歩むこれからの北浦和～】

北浦和と新都心、バリアフリーの整備状況が異なる2つのまちを比較するなど、「皆が住みよいまち」について深く実感し、自分達のまちがどのようになっていってほしいかを考えていきました。

##### 【実施計画】

過程	子ども達の活動	
ふれる	<u>ふれあい学習</u>	・ 高齢者や障害者の方と接し、バリアフリー等についてより詳しく知る。 ⇒ 課題決定
つかむ	<u>まち歩き学習</u> 自分たちのまちについて考える	・ どのようなところにバリアフリーがあるか。 ・ バリアフリーが必要な場所はどこか。 ・ 自分たちにどのようなことができるか。 ・ 自分たちのまちに課題はないか。

深める	新都心見学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインやバリアフリーで身近な地域の見学や歩行体験を行い、課題を追及する。</li> <li>・北浦和小学校周辺と新都心、バリアフリーの整備状況が異なる2つのまちを比較することで、「皆が住みよいまち」について深く実感し、自分達のまちがどのようになってほしいかを考える。</li> </ul>
	調べる 自己学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害を持つ人の、よりよい生活の仕方を考える。</li> <li>・街中の施設や店、駅、道路にされている工夫などを調べ、自分たちのまちに生かせないか考える。</li> <li>・バリアフリーやユニバーサルデザインについて考える。</li> </ul>
まとめる	『みんなで歩むこれからの北浦和プラン』を考える 自己学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北浦和地区に住む全ての人々にとって、「便利・住みやすい・安心」なまちはどのようなまちか、その方法を考える。</li> <li>・これからどのように歩いていくか、自分なりに考える。</li> <li>・自分たちがすぐにでもできること、ということを考える。</li> <li>・偏見や差別をしないこと、知らない人にも教えること、正しく使うこと。</li> </ul>
	学習発表会	学習を通じて感じたことを交流しあい、自分ができるようなことに取り組んでいく意欲を高める。



## (2) ふれあい学習

日程：平成30年10月10日

会場：北浦和小学校各教室・体育館

参加者：児童、地域の方、障害者団体等

講師等協力団体：

NPO 法人さいたま市視覚障害者福祉協会、さいたま市聴覚障害者協会、一般社団法人さいたま市手をつなぐ育成会、NPO 法人ライフアシストファミリッシュ、地域包括支援センターかさい医院、浦和民主診療所居宅介護支援センター、山下コーポレーション、ケアステーションうらしん、福祉ネットワークさくら

### 内 容

#### 【目的】


- ・当事者の方々と直接ふれあうことで、障害等について関心をもち、その特性などを理解する。

#### 【ねらい】

- ・自分と異なる感覚や暮らしの方法があることを、交流を通じて理解する。
  - ・疑似体験により暮らしの中で何がバリアなのか知る。
- ⇒ 児童や周りの大人が、普段なかなか出会ったり関わったりしない方との交流により、当事者について考えたり、気づいたりできる「きっかけ」にする。

#### 【活動内容】

- 当事者等が自身についての話をし、自分達の生活や想いを児童に伝えました。
  - 当事者が普段使用している道具に触れるなどの各体験等の学習を通して、それぞれの特性について理解を促す。
- ⇒ 児童の関心をさらに引きつけ、生活についてイメージできる「きっかけ」にする。

	学習内容	学習の様子
視覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2人1組となり、アイマスクと白杖を身に付け視覚障害の体験と介助者の役割も体験し、声掛けの大切さを学びました。</li> <li>・児童が当事者へ質問し、外出時に注意していることや食事のとり方など、日常の生活について学びました。</li> </ul>	

<p>聴覚</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童と講師が、手話によるあいさつや自己紹介により交流をしました。</li> <li>・チャイムを押すと来客を知らせる器具など、日常の生活について学びました。</li> </ul>	
<p>知的</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラストボードや身近なキャラクターなどを用いて、知的障害について理解を深めました。</li> <li>・写真を用いて当事者について学びました。パニックになったときでもやさしく見守ってほしいことなどを学びました。</li> </ul>	
<p>車いす</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者や講師からの話を聞き、車いす使用者の生活状況や、必要な支援などについて学びました。</li> <li>・二人一組になり車いす体験と介助の仕方を学ぶほか、電動車いす体験をしました。</li> </ul>	
<p>高齢</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者疑似体験グッズを身に付け高齢者の日常動作を体験しました。高齢者との接し方についても学びました。</li> <li>・講師からの話を聞き、高齢者の身体状況などについて学びました。</li> </ul>	



### (3) まち歩き（小学校周辺）

日程：平成30年11月5日

会場：北浦和小学校周辺、体育館

参加者：児童、地域の方、障害者団体等

講師等協力団体：

NPO 法人さいたま市視覚障害者福祉協会、さいたま市聴覚障害者協会、一般社団法人さいたま市手をつなぐ育成会、NPO 法人ライフアシストファミリッシュ、北浦和針ヶ谷地区社会福祉協議会

#### 内 容

##### 【目的】

- ・ 障害等の体験により歩きなれた道（北浦和小学校周辺）について視点を変えることでギャップを実感する。
  - ・ 当事者の方と交流しながら歩き、その方たちがどのように感じているのか知る。
- ⇒ 自分たちのまちを住みよくするにはどうすればいいのか、考えるきっかけ、気づきを促す。

##### 【ねらい】

- ・ 実際にまちを歩くことで、自分たちのまちのバリアやバリアフリーについて理解する。
- ・ 一人ひとりの能力がハンデの原因なのではなく、環境（バリア）が、ハンデを生むことに気づく。

##### 【活動内容⑥】

###### ○ 学校周辺のまち歩き

グループに分かれて、子ども、当事者の方などと共に歩き、まちを歩く上での不便さを質問したり、疑似体験グッズを使用したりすることで、歩き慣れた道におけるバリア等について、多くの気づきを得られました。



【活動内容⑥】

○ グループミーティング

まちを歩いてみて感じたこと、考えたことを情報共有することで、そこから派生するさまざまな意見交換を実施しました。



(4) まち歩き (さいたま新都心駅周辺)

日程：平成31年1月21日

会場：さいたま新都心駅 けやき広場等

参加者：児童、地域の方、障害者団体等

講師等協力団体：さいたま新都心ふれあいプラザ

内 容

【目的】

- ・北浦和地区とさいたま新都心駅周辺のバリアフリーの整備状況が異なる2つのまちを比較することで、「だれもが住みよいまち」について深く実感し、自分達のまちがどのようになっていってほしいかを考える。
- ⇒ 自分たちのまちを住みよくするにはどうすればいいのか、考えるきっかけや気づきを促す。

【ねらい】

- ・ユニバーサルデザインやバリアフリーについて、身近な地域の見学や歩行体験を行い、課題を追及する。
- ・バリアフリーの整備状況が異なるまちを実際に歩くことで、バリアやバリアフリーについて理解を深める。

【活動内容】

- さいたま新都心駅周辺の点字ブロックやエレベーター、多機能トイレなど、バリアフリーの整備状況について、まち歩き体験を行いました。
- だれもが住みよいまちにするためにどのような工夫がされているか学びました。





## (5) 学習発表会

日程：平成31年2月28日

会場：北浦和小学校体育館

参加者：児童、保護者、地域の方、障害者団体等

講師等協力団体：

NPO 法人さいたま市視覚障害者福祉協会、さいたま市聴覚障害者協会、一般社団法人さいたま市手をつなぐ育成会、NPO 法人ライフアシストファミリッシュ、北浦和針ヶ谷地区社会福祉協議会

### 内 容

#### 【目的】

自分たちのまちを「皆が住みよいまち」にするためにはどうすればいいのか、考え、行動していく、という福祉のまちづくりを地域に拡げていくきっかけとする。

#### 【ねらい】

児童の豊かな感性から生まれるアイデアや気づき、子どもだから言える素直な意見を大人たちに伝え、北浦和地区に住む全員が考えるきっかけにする。

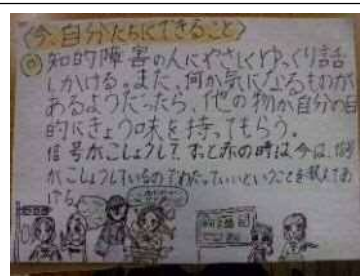
#### 【活動内容】

- 体験等の経験をもとに、北浦和地区の課題等に対する自分の考えを発表しました。
- 大人から感想や質問によるフィードバックを受け、学び合いを行いました。

### 発表の様子



### 発表資料 児童が調べ考えた「みんなで歩むこれからの北浦和」のプラン



## (6) 今年度の事業を終えて

北浦和小学校におけるモデル地区推進事業については、ふれあい学習、学校周辺のまち歩き学習のほか、さいたま新都心駅周辺でのまち歩き学習の実施、児童の学習発表会ではグループ発表や質疑・講評の時間を設けるなど、昨年度に引き続き、学校や関係者の協力を得て、事業を実施することができました。また、学習発表会においては、多くの保護者の方にご参加いただき、福祉のまちづくりについて児童と共に学び合うことができました。

一方、学校周辺のまち歩きコースの設定について、段差などのバリアが感じとりにくいとの意見や、学習発表会において児童の声が届きづらいなどの課題もありました。今後も、学校側をはじめとして、各関係団体等の理解と協力を得ながら、事業の改善・充実を図っていきます。

さらに、学校主体で事業が継続されるよう、各関係団体等の協力をいただきながら必要な支援を行っていきます。

## 参加者の声から

### ふれあい学習 参加者アンケート（抜粋）

#### 1 今回の授業（ふれあい学習）に参加してのご感想をお聞かせください

- ・積極的に私たちの話に参加してくれて、多くに質問をしてくださいました。時間が足りなく、全部聞けなかったことが残念でした。
- ・色々な方がお手伝いをしたい、と言って下さり、いつもとは異なる関わりができ、地域のお役に立てて良かったです。
- ・講師の指導がどのクラスも良かった。わかりやすかった。
- ・福祉について学ぶ建築学生という立場で参加させていただきました。4年生という時期に障害などについて学び理解を深めるのはとても有意義だと感じました。生徒たちも積極的に参加していて、障害のある方たちと支え合えるような生徒さんたちになる期待があります。
- ・児童からの質問が多くて時間が足りないくらいでした。関心の高さにうれしく思いました。

#### 2 児童の気づきや言葉で印象に残っていることがありましたらお聞かせ下さい

- ・町内で障害を持った人を見たことがある人が何人かいて、気にしてきてくれた事など感じました。
- ・「高齢者の見え方体験で、想像していたことと全く違い不自由なことが多いと思った。そこのところを考えてこれから接していきたいと思った。」
- ・「道で会ったら声掛けをしてあげたい。助けてあげたい。」という気持ちが芽生えてよかった。
- ・児童はしっかりと当事者の説明に耳を傾け、ほぼ全員、一生懸命質問していた。
- ・小学校4年生だからかわからないのですが、高学年の生徒さんたちより障害に対してフラットな印象がありました。ヘルパー役の生徒さんたちがヘルパーの役割を理解してくれた感がありうれしく思いました。
- ・勉強に慣れてしまうと車いすに乗ってVサインをする子どもが目につき残念と思いました。

#### 3 次年に向けての問題や課題、改善した方がいいと思ったことがありましたら、お聞かせください

- ・質問も多かったので、こちらの答えもある程度準備が必要。また、聞けなかったことは後で文章などでやりとりできたらと思いました。
- ・高齢者や障害のある方がいるところで走り回るのは危険なため、そこは配慮した方が良いと感じた。
- ・同じ授業を2回行いましたが、1回目の際は全体での開会式にスタッフが全員出席してしまったため、授業のスタートが遅くなってしまいました。学校側と事前に詳細な準備をしておけばよかったと反省しました。
- ・事情があったと思いますが、講師として高齢者が参加していませんでした。極力ご参加をお願い申し上げます。

## ふれあい学習 児童アンケート（抜粋）

- ・知的障害者や高齢者の方は、普段どのような生活を送っているのかがわかりました。
- ・別の体験もできたらしたいです。
- ・障害を持っている人は、自分ではできないこともあることを知りました。
- ・町でゴミを捨てっぱなしにすると歩きづらいことを知れました。
- ・障害を持っている人たちが楽に暮らせるようにしたいと思いました。
- ・いろいろな話を聞いて、いろいろなことが知れてよかったです。
- ・障害のある人は大変だと思っていたけれど、今回の学習でわたしが思っていた以上に大変でした。これからみかけたらすぐに助けたいです。
- ・普段たまに見かける障害を持つ人が実はここまで苦労しているなんて思ってもみなかったのでびっくりしました。
- ・講師の方たちがひとつひとつ丁寧に話してくれて、とても分かりやすく学ぶことができました。
- ・高齢者や障害のある人は少しつらいと思うこともあると思うけど、毎日の生活を楽しくしてるんだなと思いました。
- ・とても大変でした。でもその状態をたくさんの間続けていることはすごいなと思いました。
- ・もっと調べて、障害を持っている人を助けたいです。
- ・私たちがとても楽な生活をしていることがわかりました。人を助け合うことは助けた人の命に繋がる。そして、良い世界に導くことができる。そんな大切なことをやらないなんてもったいないと思いました。
- ・障害のある人や高齢者はいつもこんなに大変な生活を送っていることを知り、私も何か手伝うことがあればやりたいと思いました。
- ・視覚障害で、段差やちょっとしたことでケガをするなど、とてもこわいなと思いました。
- ・障害のある人もいろいろなことをできるんだなと思いました。
- ・車いすでは道中に置かれた自転車や歩きスマホの人などが邪魔みたいだったので、気を付けたいです。知的では、人に合わせたりすることが苦手みたいだったので、やさしく話しかけたいです。
- ・知的障害の話聞いて思ったことは、ゆっくりと言ったり、何度も言ってあげたりするということがわかりました。
- ・この体験で学んだことを活かしていきたいです。
- ・障害のある人たちは、できないこともあるし、できることもあるから、できないことは手伝ってあげたいなと思いました。
- ・手話など障害のある人が使っているものを習えてよかったです。
- ・障害がある人もない人も、目が見なかったり話すのが苦手だったりするだけで、あまり大きな差はないんだなと思いました。

## まち歩き学習 参加者アンケート（抜粋）

### 1 今回の授業（まち歩き）に参加してのご感想をお聞かせください

- ・大変良い企画で地区社協でも高齢者福祉に取り組んでいます。住みよいまちづくりは今後の課題であり、子ども達が地域の事情を知ることには大変意義深いものです。
- ・今回のまち歩きでパトロールの方が誘導したり信号機のボタンを押したりして子どもの確認事項の妨げとなっていたのは残念でした。
- ・子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごせました。核家族が多数の社会において、我々高齢者と共通の時間を持ち、疑似体験を通して高齢者を知るという経験は子どもの成長に大きなインパクトを与える機会となったと思います。今後も学業に支障のない範囲で実施してください。
- ・小学生のうちに地域のことについて意識をもって体験をすることは貴重なことだと思った。ただ、児童に対して事前のレクチャーが少なかったのか、関心を持って参加している子どもが少ないように見受けられた。
- ・まち歩きコースとしては、難が少なかったように感じました。もう少し悪路や段差があつてよかつたかと思ひます。その方が、人の力、ハード面よりソフト面でのバリアフリーを感じられたかなと思ひます。

### 2 児童の気づきや言葉で印象に残っているものがありましたらお聞かせください

- ・大人が気付かないことの発見があり、子どもの感覚の鋭さを実感しました。
- ・「何か生活の中で気を付けていることはありますか」との問い。
- ・自動販売機を見たとき、お金の投入口がわからず販売機のあちこちを触っていた。投入口がわかっているにもかかわらず、触りながら「わかりにくい」と驚いていた。
- ・関係者が積極的に児童に話していただき、おかげで児童も積極的に質問をしていました。活発なグループミーティングができたと思ひます。
- ・遊歩道の入り口に車止めのコンクリート円柱がグレーで目立たず、高齢者にとって危険なので、もっと目立つ色にした方が良いのではないかと発言があり印象的だった。
- ・「車いす=かわいそう」というイメージが少しでも変わればと思ひます。段差など一生懸命車いすを押していたのが微笑ましかつたです。

### 3 次年度に向けての問題や課題、改善した方がよいと思つたことがありましたら、お聞かせください

- ・一生懸命やっている子もいましたが、中にはおしゃべりを始めてしまう子もいました。4年生の時に行くことは、それなりに成果は有るとは思ひますが、もう少し高学年の子供たちに体験させるというのも良いのではと思ひました。
- ・私にとつてもこのような授業に参加したのは初めての経験でした。子どもたちが弱い立場の方と触れ合い助け、自然体で接することが出来、やさしい大人になってくれることを願ひます。今回は割と人通りが少ない遊歩道のコースでしたがもっと人通りの多い商店街の方が良かったのではと思ひました。
- ・様々な当事者の方々の置かれている状況や背景の知識がもう少しあると、より深い学びになったのではないかと思ひます。
- ・比較的整備されていたルートであつたので、もう少し特徴的なわかりやすいルートの方が良いのではないかと思ひました。



## まち歩き学習 児童アンケート（抜粋）

- ・わたしたちがなんとも思わないことも、障害のある人にとっては、大きな壁のようなものに思えることがわかりました。
- ・耳栓をして町を歩くのはとても不安でした。
- ・耳の聞こえない人は、こういうところが不便でこういうところは助ける人がいないといけないと、色々なことがわかりました。
- ・視覚障害を持っている人は、外に出るとガイドがいないと大変なことがわかりました。
- ・この学習をして車いすの人は補助の人がいないと大変なんだと思いました。
- ・町では色々な人が住みやすい町になっていてすごいと思いました。今度は乗り物などでいろんな人が使いやすい工夫がされているのかを調べたいです。
- ・障害のある人に差別をするのは正しくなくて、みんながみんな楽しい世の中でないといけないと思いました。
- ・これから身体の不自由な人を見かけたらたくさん声をかけて、より良い世の中を作っていきたいです。
- ・私は聴覚の体験をして町の中では車などの危なさが分かり、障害者も住みよい暮らしになればいいと思います。
- ・もっとくわしく知りたいので、このような体験をまたしてみたいです。
- ・車いすは後ろが見えにくいので、自転車に乗ったときなどは気を付けないといけない。
- ・段差を少なくしたり、スロープをつけるとより良い町になると思います。
- ・他の人たちにつくしてくれている人がいて、すごかったです。僕もそうなりたいと思いました。
- ・わたしたちと障害のある人たちとのバリアがフリーになるようにできればいいと強く感じました。
- ・町はいろいろな障害者にとって不便に感じるところや危ないところがたくさんあることを知りました。町を安全に全員が通れるようにして欲しいと思いました。
- ・道にへこみがあり、体験しているときにつまづきそうになってしまったので、段差やへこみはなくした方が障害者の人などが住みやすい町になると思いました。
- ・もし困っている人を見かけたら声をかけてあげたいです。
- ・わたしは障害のある人がどのような暮らしをしているのかがわかりました。時には信号でもパニックになったりすることや、みんなと同じに暮らしているということを知りました。
- ・町には障害物がないとは言い切れないので、なくなっていつ皆が住みやすい町になってほしいです。
- ・今回はとてもわかりやすく説明してくれてありがとうございました。貴重な体験ができたと思います。
- ・介助者の指示の大切さがわかりました。
- ・室内の体験とは違って、もっと危ないことや大事なことを学習できてよかったです。

## 学習発表会 参加者アンケート（抜粋）

### 1 学習発表会に参加してのご感想をお聞かせください

- ・高齢者が困っていることに気付き、改善策を出してきたことはすばらしい。耳が遠くなる、認知機能が下がる、などにも気付くと良かったと思います。
- ・発表の仕方については、声が小さいなど問題はありますが、1年間の学習を通して福祉について考えるよいスタートができたと思います。
- ・子ども目線で物を見ることの大切さを実感した。自分のためにも大変役立った。
- ・障害者や高齢者について児童たちが勉強した内容を、さまざまな工夫を凝らして発表していた点がとてもよかったです。
- ・紙芝居形式でわかりやすくよくまとまっていたと思う。クイズにして聞いている人を参加させるなど工夫があった。
- ・生徒さんが細かなところまで気がついての報告でしたので感心いたしました。大変良かったです。
- ・障害のある人と直接、接して、知ったり学ぶことはとても大切だと思います。もっと近い存在になって、手を差し伸べられる人になってほしいと思います。

### 2 児童の気づきや言葉で印象に残っているものがありましたらお聞かせください

- ・高齢者の困っていること（階段の昇り降り、段差、痛み）などに気付いたこと。
- ・困っている高齢者に対して、無理強いせずに「なにか手伝いましょうか」と声をかけるといったことです。先生が思いやりを持って接することは、教室（友達）でも同じことだと言っていたことです。
- ・子どもの気づきに驚いた。
- ・視覚障害に関する発表で、視覚障害者役の児童と介助者役の児童が障害者の体を支えて歩く実演をしていました。その後、障害を持つ方から正しい支え方の指摘がありました。このように実際に体を動かし、支えることを体験して初めてわかることがあるのだと印象に残りました。
- ・外に出て、視覚障害の方がいたら「声をかけてみましょう」との皆さんの発表です。
- ・車いすの通りが狭くならないように気を付ける、困っている人がいたら声をかける。このようなことをみんなが思ってくれているようで感心しました。

### 3 次年度に向けての問題や課題、改善した方がいいと思ったことがありましたら、お聞かせください

- ・高齢者担当は民生委員でしたが、実際の高齢者に話を聞くことも大切だと思います。児童は、高齢者全員が腰が痛く、足が重いと感じているように聞こえました。
- ・ぜひ、次年度も実際に体験できる学習を授業に取り入れてください。
- ・色々工夫したり、努力したのに、声が小さかったりして聞き取れない時が多くてとても勿体ないと思いました。4年生なので、これからの経験を重ねることで成長していくことを楽しみにしています。
- ・1年間かけて学んできていたとのことで、たとえば1学期、2学期で学んだことについては口頭で発表しなくてもそれぞれ模造紙などでまとめたものが貼られていたりすると、1年間の学習の成果がより分かったかと思います。子どもたちにとっても1年間かけて学んだこと全体の振り返りにもなるように思います。
- ・たくさんの時間をかけて作った資料の発表でしたが、時間が短く惜しい気持ちです。各グループ工夫を考えての発表に頭が下がります。

## 学習発表会 児童アンケート（抜粋）

### 1 これまでの学習でわかりやすかったところはどんなところですか

- ・障害のある人が、困っていることがわかりやすかったです。
- ・車いすでは坂を下るときにすごく不安で、特にくぼみがあるとそれ以上に怖いなど、車いすの大変なことがよくわかりました。また、自分達にもできることがたくさんあるということがわかりました。
- ・「バリアフリー」は今までどういう意味がわからなかったけど、教えてもらってとてもわかりました。
- ・実際に体験をさせてもらったところ。
- ・これから障害のある人のためになにをすればよいか。
- ・障害のある人が直接学校に来てくれて、教えてくれたところ。
- ・さいたま新都心に行って、点字や点字ブロック、そして案内板などが分かりやすかったです。

### 2 これまでの学習でわからなかったところや、もっと知りたいと思ったところはどんなところですか。

- ・障害のある人が困っていることに対して実際にある対策について知りたいです。
- ・普段どういったところが不安なのか、毎日家ではどのように過ごしているのか、目の見えない人が楽しく遊べることは何か、など。
- ・どうやって、何の障害か見分ければいいのか。
- ・自分達でもしてあげられることができるバリアフリーは、何があるのかもっと知りたい。
- ・障害はどのようなことが原因でなるのか。
- ・今回調べた障害とは別の障害のことも知りたいです。
- ・障害のある人や、高齢者の方が、楽になるためにどんなふうになってほしいのか、というところ。

### 3 自分たちのまちがこれからどのようになって欲しいと思いましたか。

- ・障害のある人もない人も、便利で快適に利用できるようなまちになってほしいです。
- ・障害のある人、高齢者の方がより楽に便利に感じるようなまちになって、色々な人が助け合えるまちになってほしいなと思いました。
- ・安全で快適などんな人でも笑顔で過ごせるまち。
- ・困っている人をすすんで助けてあげられるまちになってほしいです。
- ・障害のある人にやさしい環境、みんなが助け合って協力できるまち。
- ・もっと自然に障害のある人とふれあえるまち。
- ・障害者の人たちのことを色々な人たちに分かってもらって、障害者の人たちも暮らしやすい町になってほしいです。

## 学習発表会 保護者アンケート（抜粋）

### 1 本日の学習発表会は、モデル地区推進事業と連携して行われています。この学習発表会に参加してのご感想、児童の言葉や発表内容で印象に残っているものがあれば、お聞かせください。

- ・児童それぞれが必要とされる事や、あったら良いと思われるものを考えて発表している姿が印象に残っています。最後に講師の方から「困っている姿を見たら声をかけてください。声をかけられるとうれしいです」という一言を聞き、今までためらっていた自分を反省する機会にもなりました。
- ・とにかく自己中心的となりがちな子ども達にとって周囲の人々へ優しい目を向けるきっかけとなったと思います。臆することなく手助けの声掛けができる大人に成長してほしいと思います。
- ・子ども達が長い期間少しずつ福祉について学んできたんだと思える発表内容でした。「困っている人に声をかける」とみんな言っていたのが印象的でした。
- ・講師の方々が子ども達の発表の過不足をしっかりと補足してくださっており、内容のある発表会であると感じました。
- ・児童が発表の中で「困っている人がいたら声をかけて助けてあげたい」と言っていたのに対し、講師の方から「言うのは簡単だけれど、実際に声をかけるのは勇気のいること。でも一回目の勇気を出したらきっと慣れて2回目も言えるようになると思うからやってみてください」というお話があり、児童は真剣に聞き入っていた様子が印象的でした。親としてもとても勉強になる一時間を過ごさせていただきました。
- ・優しい子ども達が育ってくれそうな気がしました。
- ・社会には体の不自由な人がたくさんいて、そういう方の特性や配慮など4年生で学ぶのはいい時期でもあるし、良い内容だったと思います。今後も続けていただきたいです。
- ・障害者の方に対し、言葉をかけてしまうのはかえって迷惑になるのではないかと、思い躊躇していましたが、今回当事者である方々が、「何かお手伝いすることはないですか」「ここは危ないですよ」という声かけはありがたい、との説明を聞き、大人も子どもも積極的にかかわる大切さを改めて知ることができました。
- ・発表の内容は良かったのに、周囲の声に消されて、よく聞こえづらい班もあったので残念でした。発表の用紙ももう少しサイズの大きいものの方がよく見えたと思います。
- ・高齢者や車いす、聴覚障害など、大変な方たちの立場になり寄り添う言葉が見受けられた。
- ・困っている人がいたら声をかける大切さがよくわかりとてもよかったです。
- ・皆、優しい気持ちで考えていて感心しました。
- ・障害者や高齢者の方の困っていることや、不自由に思うことなど、お話を聞く機会を持ててよかったです。ありがとうございました。
- ・会場も広く、参加者も多かったこともあったせいか、発表する児童の声があまり聞こえない時もあり、とても残念で勿体ないなと思いました。せっかく学んだことを発表できるいい機会だったので、児童においても、もっと自信をもって大きな声で発表できたらよかったかなと思いました。
- ・実際に障害を持つ当事者の方に講師をしていただいて、評価をしていただいたことで、さらに理解が深まったと思います。
- ・子ども達が身近なこととして考えたり発表するために調べたりしてとても良いなと思いました。私も勉強になりました。

発 行

〒330-9588

さいたま市浦和区常盤6-4-4

さいたま市保健福祉局福祉部福祉総務課

電 話 048-829-1254

FAX 048-829-1961